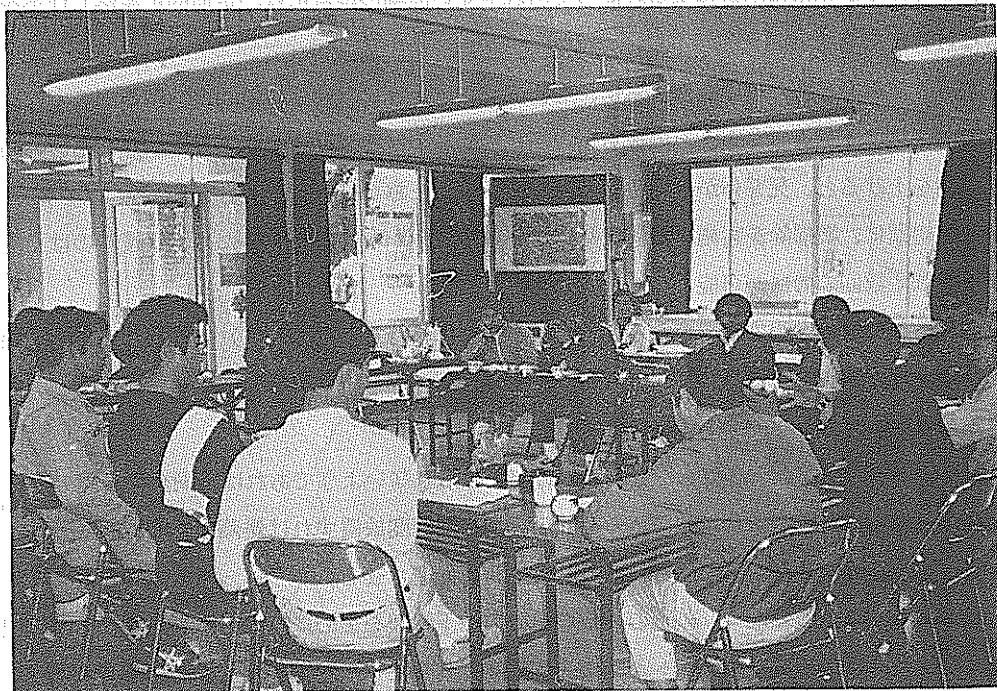


昭和 63 年度 ヒトエグサ 養殖生産者会議の開催

ヒトエグサ養殖は、天然採苗を主体に養殖が始められて30数年になるが、地域によってはまだ安定生産までにはいたっていない。そこで、生産者が一同に会し、生産技術を中心に、意見交換を行い、養殖技術の向上を図る必要があり、同会議を開催した。昭和63年度は、「採苗から収穫までの管理」についてアンケート調査を中心に意見交換が8月30日午後1時30分から水産業改良普及所において行われた。同会議のアンケート調査と全体会議の要約を養殖管理の部分について列挙した。

尚、当日は、生産地である伊平屋、伊是名、本部、恩納、北中城、八重山の6漁協で24名の参加があった。(専技室)



熱心に意見交換が行なわれたヒトエグサ
会議（参加人員24名）

一 採苗から収穫までの管理

1. 天然採苗

- (1) 採苗漁場は、ヒトエグサの自生している場所を選定する。さらに、雑藻類の繁殖が見られない漁場が天然採苗漁場として、最適である。
- (2) 網は5枚～10枚重ねた状態で採苗する。採苗時の網の高さは（雑藻の生育する高さと、ヒトエグサの生育する高さが違うので、採苗する前に、生育相の調査をしておかないと雑藻を多くつけることになる。）あらかじめ調査した高さにピン張りする。

2. 網掃除の実施

- (1) 網地が泥等で汚れが目立つ場合には、発芽体が大きくないうちに網掃除をして泥を落す事、そのままの状態にしておくと発芽体が泥と混り合うため収穫時に藻体はく離しやすくなり、収穫作業が非常に困難になる。従って汚れやすい漁場の場合には、定期的に泥落し作業をしなければならない。
- (2) 泥落し作業を終えた網は、ただちに、もとの高さに上げず（発芽体の回復を図る意味で）接地した状態に4～5日おき、その後もとの高さに網を上げるようにする。いきなり、もとの高さに網を上げると、発芽体が故死する場合があるので注意が必要である。
- (3) 発芽初期に、網掃除を実施すると発芽体が網糸にしっかりと固着するため、収穫時のはく離がみられず数回の摘採が可能になる。
- (4) 発芽体の生育が肉眼で確認できる大きさ（本張りに移行できる大きさ）に達したら、網掃除はひかえた方がよい。

3. 雑藻の駆除

- (1) 雑藻の駆除方法—どうしても、雑藻の附着がさけられないようであれば、網全体を思いきって高張りにし、無冠水状態にして、一週間から10日間程度放置すれば雑藻は駆除できる。
- (2) 雑藻駆除後は、網はもとの高さにもどし、生育を促進させる。

ヒトエグサの網の管理は、以上のように網の上、下管理をまめに行うことであり、その管理なくして増産は望めない。（ヒトエグサ養殖生産者会議より）

ササエヒトエグサの養殖と流通
（公益社団法人） 協会

伊平屋村漁協

